

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-53

(P2000-53A)

(43) 公開日 平成12年1月7日(2000.1.7)

(51) Int.Cl.

A 0 1 M 29/00

識別記号

F I

A 0 1 M 29/00

キーワード(参考)

B 2 B 1 2 1

審査請求 未請求 請求項の数7 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平10-185695

(22) 出願日

平成10年6月15日(1998.6.15)

(71) 出願人 598087265

吉田 信 幸

兵庫県加古川市尾上町池田719番地の9

(72) 発明者 吉田 信 幸

兵庫県加古川市尾上町池田719番地の9

(74) 代理人 100071434

弁理士 手島 孝美

Fターム(参考) 2B121 A007 DA25 DA27 DA30 EA21

EA23 EA26 FA03 FA07 FA08

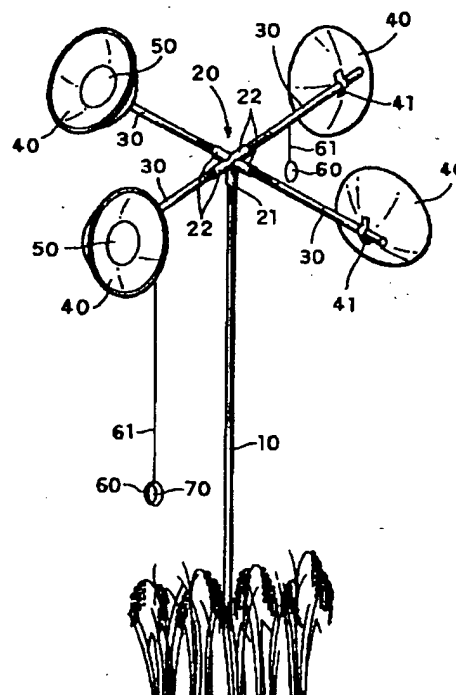
FA13

(54) 【発明の名称】 鳥脅し機

(57) 【要約】

【課題】 脅し効果を永続的に確保できる安価な鳥脅し機を提供する。

【解決手段】 構造部分(30)から相互に間隔をあけて少なくとも2本の懸垂部材(61)を懸垂し、懸垂部材の異なる高さに円形状又は楕円形状の腕状部材(60)を取付け、該腕状部材の内部には円形又は楕円形の鏡体(70)を固定する。自然風によって少なくとも2つの腕状部材を異なる高さで回転させ、鏡体の反射光と腕状部材の形状とによって害鳥に対して動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 構造部分から相互に間隔をあけて懸垂される少なくとも2本の懸垂部材と、
該各懸垂部材の先端側の異なる高さに取付けられ、自然風にて上記懸垂部材の回りに回転しうる円形状又は楕円形状の腕状部材と、
該各腕状部材の内部に取付けられ、光を反射することにより上記腕状部材とともに忌避すべき鳥に対して動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える円形又は楕円形の鏡体とを備えたことを特徴とする鳥脅し機。

【請求項2】 地面又は固定構造物に立設される支柱と、
該支柱に回転自在に支承されたベース部と、
該ベース部に水平方向に延びて取付けられた少なくとも2本の取付け軸と、
該少なくとも2本の各取付け軸に支承され、自然風を受けて上記ベース部を回転させる円形状又は楕円形状の腕状部材と、
該腕状部材の内部に取付けられ、光を反射することにより上記腕状部材とともに鳥に対して動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える円形又は楕円形の鏡体と、
上記少なくとも2本の取付け軸から相互に間隔をあけて懸垂される少なくとも2本の懸垂部材と、
該各懸垂部材の先端側の異なる高さに取付けられ、自然風にて上記懸垂部材の回りに回転しうる円形状又は楕円形状の腕状部材と、
該各腕状部材の内部に取付けられ、光を反射することにより上記腕状部材とともに忌避すべき鳥に対して素早く動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える円形又は楕円形の鏡体とを備えたことを特徴とする鳥脅し機。

【請求項3】 上記ベース部には4本の上記取付け軸が取付けられ、該4本の各取付け軸には上記腕状部材が支承され、該4つの腕状部材のうち、2つは斜め上方に、残りの2つは水平方向に指向されている請求項2記載の鳥脅し機。

【請求項4】 上記腕状部材は少なくとも表面を赤色又はオレンジ色を有する請求項1ないし3のいずれかに記載の鳥脅し機。

【請求項5】 上記鏡体の外径が上記腕状部材の外径に対し、 $1/5 \sim 4/5$ の大きさである請求項1ないし4のいずれかに記載の鳥脅し機。

【請求項6】 上記取付け軸から懸垂された腕状部材が上記取付け軸に支承された腕状部材よりも小径である請求項2記載の鳥脅し機。

【請求項7】 上記ベース部が自然風による回転に加え又は自然風の停止中に、モータ駆動にて回転されるようになった請求項2記載の鳥脅し機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は鳥脅し機に関し、

2

特に鳥脅し効果を永続的に保証できるようにした安価な鳥脅し機に関する。

【0002】

【従来の技術】例えば、農家においては、雀が集団になって田を襲って稲穂をついばみ、又鳩等が畑に撒いた種子をついばみ、収穫物に大きな被害を与えている。また、都市やその近郊においては鳩、百舌、鳥等が集団で生息し、家屋の屋根やベランダあるいは洗濯物に糞を付着させ、快適な日常生活に支障を与えている。

10 【0003】上述のような鳥害や鳥の糞害に対しては種々な鳥脅し機が提案されている。例えば、①目玉模様を入れた風船をぶら下げるようにしたもの、②爆発音を発生させるようにしたもの、③鳥が嫌がる光を発生させるようにしたもの（実公昭63-31595号公報、実開昭62-10779号公報、参照）、④鳥が嫌がる光と音を発生させるようにしたもの（実開昭52-124985号公報、実開平2-137876号公報、参照）、等が知られている。

【0004】

20 【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の鳥脅し機では鳥がすぐにその刺激を慣れて脅しの効果が薄れてしまうという問題があった。

【0005】本発明は、かかる問題点に鑑み、鳥脅し効果を永続的に保証できるようにした安価な鳥脅し機を提供することを課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本件発明者は上述の課題を解決すべく鋭意研究をした結果、雀、鳩、百舌、鳥等の害鳥は猛禽類に対して非常に警戒することに着目するに至った。しかし、単に猛禽類の姿形を模してもそれに慣れるのに対し、猛禽類、特に動いている猛禽類の目に似せた刺激を与えるとその刺激にはなかなか慣れず、長期にわたって脅し効果があることを知見し、本発明を完成するに至った。

【0007】即ち、本発明に係る鳥脅し機は、構造部分から相互に間隔をあけて懸垂される少なくとも2本の懸垂部材と、該各懸垂部材の先端側の異なる高さに取付けられ、自然風にて上記懸垂部材の回りに回転しうる円形状又は楕円形状の腕状部材と、該各腕状部材の内部に取付けられ、光を反射することにより上記腕状部材とともに忌避すべき鳥に対して動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える円形又は楕円形の鏡体とを備えたことを特徴とする。

【0008】本発明の特徴の1つは相互に異なる高さで回転する少なくとも2つの腕状部材とその内部の鏡体とによって動いている猛禽類の目に似せた刺激を与えるようにした点にある。これにより、長期間にわたって雀や鳩等の害鳥の脅し効果を確保できる。本件発明者が四角形状の腕状部材と鏡体、四角形状の腕状部材と円形又は楕円形の鏡体、円形又は楕円形の腕状部材と四角形の鏡

50

3

体との組合せについても試作し、その鳥脅し効果を調べたところ、すぐにその刺激に慣れるのに対し、腕状部材及び鏡体を共に円形又は楕円形にすると、なかなか刺激に慣れず、長期間にわたって鳥脅し効果があることを確認している。

【0009】また、動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える上で、懸垂した少なくとも2つの腕状部材の関係を維持したまま、全体を回転させるのがよい。この場合、回転機構を利用して更に猛禽類の目に似た刺激を与えるようにすると、更に鳥脅し効果を長期にわたって保証できる。

【0010】即ち、本発明に係る鳥脅し機は、地面又は固定構造物に立設される支柱と、該支柱に回転自在に支承されたベース部と、該ベース部に水平方向に延びて取付けられた少なくとも2本の取付け軸と、該少なくとも2本の各取付け軸に支承され、自然風を受けて上記ベース部を回転させる円形状又は楕円形状の腕状部材と、該腕状部材の内部に取付けられ、光を反射することにより上記腕状部材とともに忌避すべき鳥に対して動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える円形又は楕円形の鏡体と、上記少なくとも2本の取付け軸から相互に間隔をあけて懸垂される少なくとも2本の懸垂部材と、該各懸垂部材の先端側の異なる高さに取付けられ、自然風にて上記懸垂部材の回りに回転しうる円形状又は楕円形状の腕状部材と、該各腕状部材の内部に取付けられ、光を反射することにより上記腕状部材とともに忌避すべき鳥に対して素早く動いている猛禽類の目に似せた刺激を与える円形又は楕円形の鏡体とを備えたことを特徴とする。

【0011】長期にわたる鳥脅し効果を保証する上で、水平方向から侵入する害鳥ばかりでなく、上空から侵入する害鳥に対しても刺激を与える必要がある。そこで、ベース部には4本の取付け軸を取付け、該4本の取付け軸には腕状部材を支承し、該4つの腕状部材のうち、2つは斜め上方に、残りの2つは水平方向に指向させるのがよい。

【0012】また、この取付け軸に支承した腕状部材及び鏡体による刺激は懸垂した腕状部材及びその鏡体による刺激と異ならせるのが好ましい。そこで、懸垂した腕状部材は取付け軸に支承した腕状部材よりも小径とするのがよい。

【0013】腕状部材は内部の鏡体とともに猛禽類の目に似せた刺激を与えることが大切である。通常、猛禽類の目は縁取りがあることが多い。そこで、猛禽類の目の縁取りに似せた刺激を与えるべく、腕状部材は少なくとも表面、好ましくは表裏面を赤色又はオレンジ色に着色するのがよい。

【0014】また、猛禽類の目に似せた刺激を与える上で、腕状部材と鏡体の外径を猛禽類の目の瞳の大きさと縁取りの大きさの比率に設定するのがよい。但し、猛禽類の瞳の大きさは太陽光線の強さ等によって変化し、一

4

様に決定することはできないが、概ね1/5~4/5の範囲内、通常は1/3の比率である。そこで、鏡体の外径は腕状部材の外径に対し、1/5~4/5の範囲内、好ましくは1/3程度の大きさに設定するのがよい。

【0015】また、腕状部材が自然風を受けてベース部が回転するが、自然風が弱い場合にはベース部が回転せず、上述の効果が期待できない。そこで、ベース部は自然風による回転に加え又は自然風の停止中に、モータ駆動にて回転されるようになるのがよい。

10 【0016】

【作用及び発明の効果】本発明によれば、相互に異なる高さで回転する少なくとも2つの腕状部材とその内部の鏡体とによって動いている猛禽類の目に似せた刺激を与えるようにしたので、雀や鳩等の害鳥が上述の刺激に慣れず、脅し効果を長期間にわたって確保できる。特に、腕状部材と鏡体とによって更に支柱回りに回転する構造とすると、より素早く動いている猛禽類の目に似せた刺激を与えることができ、鳥脅し効果をさらに長期間にわたって持続させることができる。

20 【0017】また、自然風を利用して腕状部材と鏡体とを回転させる構造を採用し、特殊な部品を必要としないので、鳥脅し機を安価に製作できる。

【0018】

【発明の実施の形態】以下、本発明を図面に示す具体例に基づいて詳細に説明する。図1は本発明に係る鳥脅し機の好ましい実施形態を示す。図において、田畑の地面上には作物上に60cm程度突出しうる長さの合成樹脂パイプ製の支柱10が立設され、該支柱10の上端には小径のパイプ（図示せず）が嵌め込まれ、該パイプにはベース部20の下脚部21が例えば軸受を介して回転自在に支承されている。

【0019】上記ベース部20は下脚部21上端に相互に直交する支持脚部22...を固定してなり、4つの支持脚部22...には小径のパイプ（図示せず）を介して長さ35cmの取付パイプ（取付け軸）30...が取付けられている。

【0020】この4つの取付パイプ30...の先端側には外径18cm~20cm程度の正面円形状をなす腕状部材40...が取付具41によって取付けられ、4つの腕状部材40...のうち、同一線上に位置する2つは斜め上方、例えば上下に対して角度約30°の方向に、残りの2つは水平方向に指向されている。

【0021】この腕状部材40...は外面が赤色に、内面が白色に着色され、又腕状部材40...の内部には円形の鏡体50...が固定されている。この鏡体50...の外径は腕状部材40...の外径に対して1/5~4/5の範囲内、好ましくは1/3程度の大きさ、例えば8cmとなっている。

40 【0022】また、構造部分としての2つの取付パイプ30、30には異なる長さ、例えば一方は40cm、他

5

方は30cmの紐部材(懸垂部材)61、61が懸垂され、該紐部材61、61の先端側には小径、例えば外径16cm〜17cm程度の腕状部材60、60が取付けられ、該腕状部材60、60は外表面が赤色に着色され、又腕状部材60、60の内部には円形の鏡体70、70が固定されている。この鏡体70、70の外径は腕状部材60、60の外径に対して1/5〜4/5の範囲内、好ましくは1/3程度の大きさとなっている。

【0023】本例の鳥脅し機では風が吹くと、ベース部20が支柱10の回りに回転する。すると、取付パイプ30に取付けられた腕状部材40とその鏡体50が支柱10の回りにゆっくりと回転し、鏡体50に太陽光線が当たってキラキラと反射し、赤色の腕状部材40の円形と円形鏡体50とによって雀や鳩、鳥に対し、動いている鷲や鷹等の猛禽類の目のような刺激を与える。

【0024】また、腕状部材60が風を受けて、紐部材61の回りに回転するとともに、支柱10の回りに回転し、その鏡体70に太陽光線が当たってキラキラと反射し、赤色の腕状部材60の円形と円形鏡体70とによって、雀や鳩、鳥に対して素早く動いている鷲や鷹等の猛禽類の目に似た刺激を与える。

【0025】その結果、雀や鳩、鳥の害鳥は猛禽類に襲

6

われているような錯覚を受け、鳥脅し機から逃げ、鳥脅し機に近づくことがない。本件発明者らの試験によれば、晴天時には雀や鳩ばかりでなく、用心深い鳥も50m以内に接近することがなかった。また、3カ月以上経過するが、雀、鳩、鳥が上述の刺激に慣れることはなく、鳥脅し効果が持続することが確認された。

【0026】また、本例の鳥脅し機はパイプ10、ベース部20、取付パイプ30、腕状部材40、60及び鏡体50、70でもって製作されており、特別な部品を用いる必要がないので、非常に安価に製作できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る鳥脅し機の好ましい実施形態を示す斜視図である。

【符号の説明】

10	支柱
20	ベース部
30	取付パイプ(取付け軸)
40	腕状部材
50	鏡体
60	腕状部材
61	紐部材(懸垂部材)
70	鏡体

【図1】

